

学生生活擁護 低文教政策打破！

新寮予算削減を許さず

窓同窓に結集くさう

工半410教室

1000名寮の一環としての200名新寮獲得!! 違て替え
新寮予算削減を許さず、本日、寮同交に結集くさう！

戦後30年間廻られた市大寮自争は、2億1千万円の予算
を獲得して、新しい局面を迎えている。10月3日、校勧業
導入で強権的に事態を収終した大學当局は、寮自争に打し
ても、現寮解体、110名寮建て替えを應えようとしている。
更に、重大なのは、杉本寮、都風寮の負担区分自争に端を
差すする寮不山口に一ぞれを対は、3年間以上
久置と、又、戦後一貫して自らの手で新寮を建てて來なか
った大學の責任は一切認めず——新寮予算の削減すら行
はんとしていることである。

これら一連の動きに対し、本日の同交で、①“1000名寮の
環としての200名新寮の早期達成”との68年学長一役詳合
約を再確認すること、②たゞでござ寮の少く市大の現状
下で、将来の草なる新寮建設の保障を残す上でも、現寮
本、都風寮を残し、建て替えを阻止すること、③寮不山
口に既に新寮予算削減の動き、又、それらを口にした
寮獲得権・入退寮权・負担区分・寮自治の切り崩しと
共に、新寮に対しても、現寮得権を実現すること、④更
に、110名寮といえども、大学ベースを建てられるべきで
なく、その設計・建設計画も含めて、寮生を中心とする學
生要求を反映せせることである。

本日の寮同交に、以上を重ち取るべく結集くさう！

内閣文部省の低文教予算政策と対抗し、
寮ヨリ一丸市予算斗争の前途を！

政府獨占資本の教育政策は、基本的には、社会主義世界体制、民族解放運動の前進する世界情勢の下でますます複雑化し複雑化する市場争奪戦にうちかつための自主技術の開拓と、より安く多様な能力のある労働力の確保の目的の下に行われている。

とりわけ、科学技術革命は科学技術の直接生産への転化を可能にし、科学・技術（その養成場所としての大学教育研究）の独占資本による私物化が益々露骨に行われようとしている。

しかも、それを政府獨占は、現代のインフレーションの中ごと、徹底した低文教政策、大衆収奪で行わんとしているのであり、学費の値上げ、学費破壊、負担区分の強化などの一連の動きは、ますます学生生活を破壊し、のみならず、大学の正常な教育研究機能すらもマヒさせている。それは同時に、当然予想される学生、教官の反対に対処するために、学内管理支配の強化、大官法、警察権力導入による大學統治維持と反動的攻撃——学生の諸権利の圧迫と共にかけられてきている。

このような中で、校勧業導入と斗い、更に田中会館、
東斗争と斗うことは全て政府獨占の教育政策と総対決し
ていく間にとして發展せざるを得ない。

民学同マゼール

とりわけ今日急激なインフレーションの進行による学生生活の破壊は、政府の伝文教政策との対決。これとの関連を要請しており、学生生活を物質的に保障させ、共同生活の中で政府独占の大学私物化と対決し、大学改革の担い手を育てていく学寮の位置は否が応ひも高まっている。新寮獲得の関連は、学上値上げ阻止、奨学金獲得の関連とともに、対市予算闘争として更に発展せらるべきはならない。そして、新寮獲得闘争を通じて学生生活保障をめざす、政府独占による大学の私物化より有効に開いた得る学生の部隊を育てていくという意味で、それは大学改革闘争と密結合しているのである。

このように、現在の情勢の下で現寮解体運動、新寮予算闘争運動と、重大な局面を迎えており、その内容一般的意義に於ても重要な関連である寮闘争は、徹底して大衆的に闘わなければならぬ。又、LICC、SIA、TID、教育など、多くのクラス・学科で広範な取組みが、この間、杉本寮・都風寮を支援する形で行われてきている。

しかしながらこのような中で、10・9学生大会に見られるごとく闘いに立ってきたクラス学友を暴力的に分断し、その結集をセクト的に拒んできた。NAC・都風寮の諸君は断固として批判されなければならない。「闘争が、学生大衆の支持者、同調者を獲得できずには自身寮運動のみに終始する傾向」は、自らの唯我獨尊の方針を改めない限り克服できないであろう。

この貫徹して寮闘争の大衆的発展を阻害してきたものは何だったのか。それに対してあくまで統一的に運動を組織してきたのは誰だったのか?!

我が同盟は、73年11月以降の寮闘争に対する消極性を一定自己批判的に総括しつつ、ここに市大闘争の発展に向けあくまで統一した大衆的寮運動の展開へ努力することを宣言する。

同時に都風寮から我が同盟に対して如えられていく「現寮解体を見抜けず……」(都風寮)に対し、又、「誹謗中傷をくり返し……」という的はずれの中傷に対し、我々は70年以後市大新寮闘争の再高揚をめざしてきましたし、更に今後市大闘争の大衆的発展へと統

一した運動を組織されることを呼びかけるのである。